

JLDG-HPCI 共用ストレージ連携システムホストへの ログイン用クライアントについて

JLDG や HPCI 共用ストレージのグリッドファイルシステムソフトウェア Gfarm は、grid middleware “Globus toolkit” を利用しています。Globus toolkit は、2018 年 1 月にプロジェクトを終了し、新たなプロジェクトに移行しています。(http://toolkit.globus.org) 最近、globus toolkit の yum repository が閉鎖された模様で、この repository から globus 関連の package を install している software の update が出来ない状況が発生している様です。JLDG 公開の手引き『JLDG - HPCI 共用ストレージ 連携システム利用の手引き (第 1 版)』(以下、手引き第一版) の Appendix A 『ログイン環境構築』の手順でセットアップした環境でも、同様の問題が発生しています。

本ドキュメントでは、手引き第一版の Appendix A の方法で構築したログイン環境で、repository を変更し、引き続き update 出来る様に設定する方法と、『ログイン環境を新たに構築する方法』を述べています。

1 手引き第一版の方法で構築したログイン環境を継続する場合

globus toolkit repository から package を install して構築したログイン環境での repository の変更手順を示します。目的は、globus repository から epel の repository に変更する事です。

作業の流れは、以下の通りです。コマンド例・出力例は、手引き第一版の方法で CentOS6 に構築したログイン環境を継続する場合のものです。参考にして下さい。

1. repository “Globus-*” によって update できない package の特定

```
# yum update
```

で、globus の repository から install されていて、更新 Error となっている package を特定する。

```
http://www.globus.org/ftppub/gt5/5.2/stable/packages/rpm/centos/6/x86_64/repodata/repomd.xml: [Er
```

```
....
```

```
Error: Package: gsi-openssh-5.7-2gt.x86_64 (@Globus-Updates)
```

```
....
```

```
Error: Package: gsi-openssh-clients-5.7-2gt.x86_64 (@Globus-Updates)
```

2. エラーになった package を rpm で 消去

```
# rpm -e gsi-openssh gsi-openssh-clients
```

3. Globus repository を消去

```
# rpm -e Globus-5.2.stable-config.centos
```

4. epel repository を導入 (まだの場合)

```
# yum install epel-release
```

5. 消去した package を再 install

```
# yum install gsi-openssh gsi-openssh-clients
```

6. 全 package update

```
# yum update
```

2 ログイン環境を新たに構築する場合

GSI 認証によるログイン環境を、CentOS7 に新たに構築する方法を示します。多くの linux 系 OS で、同様の手順でログイン環境の構築が可能です。

1. Install 済みの package を全て更新します。

```
# yum update
```

2. NTP(Network time protocol) で、時刻合わせを行います。例: /etc/chrony.conf で server を指定し、chronyd を起動、自動起動設定
3. yum epel repository を install

```
# yum install epel-release
```

必要な package を install

```
# yum install gsi-openssh-clients globus-proxy-utils globus-gass-copy-progs myproxy
```

最初の package のみ必須ですが、3つの optional な package も install しておく事を推奨します。

4. 信頼する CA 局証明書を install する為、eugridpma 提供の yum repository を利用します。以下の内容で repository ファイルを作成して下さい。

```
# cat /etc/yum.repos.d/igtf.repo
[eugridpma]
name=EUGridPMA
baseurl=http://dist.eugridpma.info/distribution/igtf/current/
gpgcheck=1
gpgkey=https://dist.eugridpma.info/distribution/igtf/current/GPG-KEY-EUGridPM
```

5. HPCI 及び KEK の CA 証明書を install します。

```
# yum install ca_HPCI ca_KEK
```

6. 失効リスト更新スクリプトの install と起動を行います。

```
# yum install fetch-crl.noarch
# systemctl start fetch-crl-cron
```

失効リストは 6 時間毎に更新されます。動作確認には、最大 6 時間待ちます。